



いっしょに歩こう！ プロジェクト

日本聖公会東日本大震災被災者支援

News Letter

第19号

2013年4月1日発行



▲ 新地 仮礼拝所にて



▲ 仙台 外国人被災者の祈り



▲ 小名浜 合同慰霊祭



▲ 釜石市 上中島仮設住宅

一人一人が様々な想いを抱き、東日本大震災の発生から2年の歳月を数えました。3月11日、釜石、仙台、新地、小名浜、それぞれのベースではこれまで出会ってきた方々の傍らに立ち、震災の犠牲となった方々、今もなお困難の内にある方々を覚えてともに祈りました。郡山聖ペテロ聖パウロ教会では教区を越えて約80名が集い、東日本大震災2周年記念聖餐式・逝去者記念の祈りを捧げました。

信徒が津波によって犠牲になった唯一の教会である磯山聖ヨハネ教会が新たな歩みを始めようとしています。



明日に向かって一歩、一歩

✎ 司祭 長谷川清純 「磯山聖ヨハネ教会礼拝堂の今後」

磯山聖ヨハネ教会礼拝堂の今後

司祭 フランシス 長谷川清純

センターしんち センター長 ・ 東北教区磯山聖ヨハネ教会復興プロジェクト委員長



磯山聖ヨハネ教会 2011年3月11日からこれまで

2011
3/11

東日本大震災発生。信徒、地域住民 13 名が教会で夜を明かした。



3/14

東北教区災害対策本部設立。

3/21

管理牧師の林国秀司祭と仙台の信徒2名が支援物資を車に積み、磯山の信徒が避難している避難所(福田小学校)へ。



4/24

イースター。仙台の信徒たちが避難所を訪問し、磯山の信徒、避難していた地域住民と共に校庭で祈りを捧げた。中には仙台の婦人会からのイースターエッグを受け取り、子どもの頃に宣教師からもらった事を懐かしむ人もいた。



7/22

南相馬市のセシモニーホールにて津波の犠牲になった3名の信徒の葬送式。

7/24

広畑仮設住宅の信徒宅で震災後初の主日礼拝。四畳半の部屋に11名が集った。



8/28

聖公会の信徒、齋藤研さんが所有するスタジオにて主日礼拝。(現在も仮礼拝所としてお借りしている。)この頃から、震災前のように月に一度の主日礼拝が守れるようになった。



2013年2月16日(土)午後1時、寒いが晴天の中、私たちは聖堂に集い、防寒着を着込んだままで会衆席に着きました。それは、礼拝堂聖別解除の祈りをささげるためでした。凍てつく空気に包まれて、加藤博道東北教区主教司式、長谷川の補式により礼拝が始まりました。磯山聖ヨハネ教会信徒や仙台・山形・米沢そして東京から来られた信徒たち、また地元の町会議員、大震災当夜避難された住民など23名が参列しました。式中の長谷川からのメッセージと、式後に立たれた当教会信徒の三宅行^{つよし}さんの挨拶で、数々のシーンが思い出されること、聖堂とのお別れが辛いこと、しかし必ずや再生・再建させて復活を遂げるとの誓い・信念が語られ、居合わせた者たちは涙と共に新しい希望と夢を胸に抱いたのでした。

週が明けた18日(月)と19日(火)の両日、大工さんに指導されながら、集まった人々は高齢の身体を惜しむことなく使い、「いっしょに歩こう!プロジェクト」の若いスタッフとボランティアさんたちと、聖堂内の会衆席や書籍などすべての備品を運び出し、聖堂の下にある改修された、信徒の農具納屋に移動し収納しました。これら遺物は、すでに昨年取り外し運搬、青葉静修館に保管されているステンドグラスや祭壇、スクリーン等と同様、近未来に再建されるであろう建物の一部にリユース、リデュース、リサイクルするためにしばらく眠るのです。76年間の働きを解かれ、この物たちはおそらく1、2年の休養に入ったのです。



1920年夏、仙台の青葉女学院長アンナ・L・ランソン女執事(ママ)が、病後保養のため磯山に来られたのが、当地宣教の始まりでした。1936年、礼拝堂が新築され、12月27日福音記者使徒聖ヨハネ日にN・S・ビンステッド主教により聖別^{じらい}されました。爾来数えて今年で77年になります。この間にあった歴史的エピソードを、私は新地町に来るようになった2年間で特に、何人の方からいくつ聞かされたのでしょうか。一つひとつが、それを語る一人ひとりの鮮明な記憶の彼方へと誘うものでした。この地で過ごした子どもたち、地域住民、信徒、家族、また宣教師、伝道師、司祭、主教たちが思い出を作っていました。

しかし、この貴重な財産でもある聖堂は、長い年月の間に海風の影響を受けて、極めて悪い状態となってしまっていました。そうして2011年3月11日、未曾有の大震災・巨大津波に見舞われました。太平洋が眺められる

海岸沿いに位置する小山の中腹に建っていた磯山聖ヨハネ教会は、幸いにも津波の難を逃れました。同時に、日頃から周知されていたとおり、聖堂は磯山地域住民のシェルターとして使われ、13名が緊急避難、そこにあったものすべてを使って暖を取り一晚を過ごした場所となり、その方々の命は救われました。

やがて、聖堂は建物としては半壊の危険判定を受けました。それでも、残された聖堂やオルガンは、何かを動かす力を持って語りかけていました。大震災後時間が経つにつれ、ここを訪ねて来られる方が次第次第に増えていきました。聖公会にとりまして信徒の津波による犠牲者がでた唯一の教会です。いつしか日本中から大勢の皆さんが、さらに世界の聖公会から指導者たちが何人も巡礼をされることになりました。そこでは、涙のうちに祈りが重ねられたのです。

礼拝堂には、ランソン先生ゆかりの1台のリードオルガンが置かれていました。亡くなられた三宅實^{みのる}さんがよく椅子に座り、楽譜を追って、一心に鍵盤上で指を動かし演奏していたものです。このオルガンはもうボロボロでしたが、ある東京教区信徒さんの信仰と熱意、勝浦オルガン工房（石巻市、今回被災された）勝浦通之さんの技術と情熱と愛情により全面完全修復が叶い、2012年12月27日礼拝堂聖別の日、それは見事によみがえって仮礼拝堂に搬入されたのでした。あまりにも素晴らしい出来事で、感動的な復活でした。2013年1月6日（顕現日）、磯山聖ヨハネ教会仮礼拝所（齋藤研スタジオ）で、主のご降誕を祝う聖餐式が献げられましたが、津波で亡くなられた信徒3人の歌声が天井からも響き渡っていたような気がしましたし、そこに、嬉しそうに微笑んでいる三宅實さんを垣間見たような気がしました。

このオルガンの復活劇がすでに私たちに与えられているので、私たちは今回聖堂とお別れをしました。これは終わりではないし、そう始まりなのです。今、私たちの間では、新しい教会の働きがどうあるべきか、どのようなものであるのかを検討し、それによってそれではどんな建物にしたらいいのかを話し合っています。東日本大震災を記念したメモリアルな、慰霊、鎮魂の場所となるようなイメージを持っていますが、具体化はこれからです。東北教区磯山聖ヨハネ教会復興プロジェクトで協議を重ねながら、主の確かで豊かなお導きを信じて明日に向かって一歩、一歩進めて行きたいと考えています。



3月中に聖堂は解体されます。本文が読まれる頃には、もうその雄姿は消えているでしょう。ありがとう 聖堂よ。再び生まれ変わる日まで。

9/11 中曽茂さん洗礼堅信式(郡山聖ペテロ聖パウロ教会にて)。

10/12 リードオルガンを修復のために石巻市の工房へ搬送。

12/4 保管のため祭壇、礼拝用具など搬出。



12/25 森薫さん洗礼式(仙台基督教会にて)。

2012 1/22 森薫さん堅信式(磯山聖ヨハネ教会仮礼拝所にて)。

2/16 アメリカ聖公会ショーリー総教主教来訪。

3/11 東日本大震災1周年記念聖餐式、逝去者記念の祈りを被災信徒宅跡地の特設テントにて捧げた。礼拝堂でも祈りの時を持った。約50名参列。



5/16 大韓聖公会から金根祥^{キムグンサン}首座主教来訪。

6/9 被災者支援センターしんち開所礼拝。57名参列。

10/3 カナダ聖公会ヒルツ大主教、フィーラー大執事来訪。

2013 1/6 オルガン修理完了。仮礼拝所へ。



2/16 礼拝堂聖別解除の祈り。(写真:左頁本文中)

2/18 礼拝堂内の荷物運び出し。会衆席の長椅子などを1つ運ぶごとに思い出話をし、全ての備品が運び出された。



3/10 東日本大震災2周年前主日礼拝(みことば)。遺族関係者17名参列。

3/12 聖別解除された磯山聖ヨハネ教会解体。信徒、プロジェクトスタッフ5名立ち合い。

■新地町（福島県）／逝去者記念の祈り

3月10日、磯山聖ヨハネ教会仮礼拝所では、津波の犠牲となった3名の信徒のご遺骨を安置し、逝去者記念の祈りが捧げられた。他に、大戸浜で家族を亡くされた一家も仮礼拝所を初めて訪れ、共に祈った。この日は、亡くなられた中曾順子さんが勤めていた幼稚園の園長先生が奏楽を担当され、「このオルガンを演奏すると、（亡くなった）中曾さんや三宅さんが弾かれていた事を思い出し、涙がこみ上げてくる」と話された。

■いわき市（福島県）／手作りの合同慰霊祭

3月11日、「富岡町泉玉露応急仮設」集会所では、昨年引き続き自治会主催による仏式の合同慰霊祭が開催された。この仮設住宅には、放射線の被害によって全町避難を余儀なくされている富岡町の方々が生活されており、町全域が警戒区域に指定されているため、ご遺骨もお墓に入ることができない。慰霊祭は、会場設営など全て住民の手によって準備され、同じく避難中である住職の方々によって行われた。100名以上が参列し、地震、津波によって亡くなられた方々と共に、避難生活中に亡くなられた方々を覚えた。聖公会からは大阪教区の木村司祭が参列し、式の前には「ほっこりカフェ」が開かれて参列した方々と交わりの時を持った。

■仙台市（宮城県）／もうひとつの記念礼拝

3月11日いっしょに歩こう！プロジェクト仙台オフィスにて外国人被災者と共に礼拝を捧げた。北海道教区の齊藤昭一司祭の司式により、震災によって逝去された参列者の家族や友人、その一人一人の名前をあげて魂の平安を祈った。この礼拝は、外国人被災者の方々の「自分自身が大切にしてきた宗教のやり方で心からお祈りをしたい」との想いを受けて行われた。参列者の多くはカトリックの女性で、仏教の家庭に嫁ぎ、亡くなった家族や友人の葬儀、記念式は仏式であげられてきた。ある人は、大切な人を覚えて、自分の精神に染み込んだキリスト教での祈りを捧げられたことで、ようやく気持ちが落ち着いた、と涙ながらに言った。



■釜石市（岩手県）／当たり前、寄り添う

釜石被災者支援センターは3月11日、身近なところで寄り添うことを目指し、特別なことは行わなかった。スタッフは、釜石神愛幼児学園の子どもも礼拝で共に祈り、上中島仮設自治会主催の祈る会に参加し、夜は野田中央仮設の慰霊祭に招かれ参加した。当たりの存在として被災者と共にその場に立ち祈ることを大切に過ごした。

活動記録 (2/6~3/5)

仮設支援

- 包丁研ぎサロン／大畑仮設（釜石市）
 - お料理会／向定内仮設（釜石市）
 - 餅つき／松倉サッカー場仮設（釜石市）
 - 座布団配布／箱崎仮設（釜石市）
 - フラワーアレンジメントを楽しむ会／小佐野仮設、昭和園仮設、小白浜仮設（釜石市）
 - ▲買い物バスツアー／箱塚桜団地（名取市）
 - ◆ほっとコーナー（お茶会）／広畑仮設など（新地町）
 - ◆ほっとシネマ／雁小屋仮設など（新地町）
 - ◆ほっこりカフェ／泉玉露仮設 渡辺町昼野仮設いわき市）
- その他にも…雪かき、指圧マッサージ、子どもプログラム、アフター5プログラム など

●岩手県 ▲宮城県 ◆福島県 ★その他、複数県における活動を示します。紙面の都合上、掲載されていない活動もあります。詳細は各ベースのブログをご覧ください。ホームページ：<http://www.nskk.org/walk/>

外国人支援

- ▲ホームヘルパー2級資格取得講座／石巻市
- ▲個別支援（子ども学習支援、刊行物の解説、職業安定所などへの付添い、他）／石巻市、多賀城市、仙台市
- ▲日本語教室、英語講師啓発セッション／仙台市

障がい者支援

- ▲イベント手伝いなど／仙台市（まどか）
- ▲作業補助など／気仙沼市（ひまわり）

その他

- ◆幼稚園手伝い／福島県内複数幼稚園
- ★被災地巡礼、訪問／宮城県、新地町など



いっしょに歩こう！プロジェクトニュースレター第19号 2013年4月1日発行

「いっしょに歩こう！プロジェクト」事務局 **OPEN** 月～金 10:00～17:00 **CLOSE** 土・日・祝

〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町3-4-5 クライスビル2F TEL:022-265-5221 FAX:022-748-5321

E-mail: walk@nskk.org ホームページ: <http://www.nskk.org/walk/>

献金をお捧げ頂く場合はこちらの口座へお願いいたします。ゆうちょ銀行 00120-0-78536 (加入者名 日本聖公会)